



京都大学防災研究所
Disaster Prevention Research Institute
Kyoto University

特定研究集会

2025TM-02

研究集会「平成 7 年兵庫県南部地震から 30 年の今、地震防災研究に求められること」

Workshop “What is sought for
earthquake disaster prevention
studies, 30 years passed since the
1995 Kobe Earthquake”

令和 8 年 3 月

March, 2026

研究代表者 松島 信一

Coordinator Shinichi Matsushima

特定研究集会（課題番号：2025TM-02）

集会名： 平成7年兵庫県南部地震から30年の今、地震防災研究に求められること
主催者名： ※共催の場合
研究代表者： 松島信一
所属機関名： 京都大学防災研究所
所内担当者名： 長嶋史明
開催日： 令和7年8月21日(木)～8月22日(金)
開催場所： 京都大学宇治キャンパス おうばくプラザ きはだホール&Zoom
参加者数： 128名（所外104名、所内24名）

研究及び教育への波及効果について

平成7年（1995年）兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）およびそれから30年の間に起こってきた地震被害をリアルタイムで知らない若手研究者・実務者が当時の状況やその時の研究課題を知り、それらの研究課題がどのように解決された、または解決されていないかを知るきっかけとなった。さらに、これまでの研究成果を踏まえ、パネルディスカッションにおいて講演者と若手研究者・実務者が質疑や意見交換を行うことで、現代社会に潜在する地震災害の危険性を考慮して今後の地震防災に関わる研究課題について議論する機会が得られた。この研究集会での議論に触発され、学生を含めて参加者各々が新しい研究テーマを創出する機会となったことが期待される。

研究集会報告

(1) 目的

令和7年1月17日で平成7年（1995年）兵庫県南部地震およびそれによって引き起こされた阪神・淡路大震災から30年が経過した。この間、多くの被害地震が発生し、地震動および関連事象による災害についての知見が蓄積されてきた。この研究集会を機に、地震防災に関わる研究者が一堂に集い、蓄積されてきた知見のレビューを行うことで、若手研究者と共有し、それらの内容を踏まえて現代から将来を見据えた際に潜在する危険性を考え、地震防災に関する今後の研究に求められることについて意見交換を行い、研究課題をあぶり出す。

(2) 成果のまとめ

令和7年8月21日(木)と8月22日(金)の2日間にわたり、京都大学宇治キャンパスおうばくプラザきはだホールに約60名、オンライン（Zoom）で約70名が集い、「平成7年兵庫県南部地震から30年の今、地震防災研究に求められること」と題した研究集会を実施した。

1日目には2つのセッション（強震観測と震源破壊過程、強震動シミュレーションとインフラ施設被害）において6名による講演があり、それぞれのセッションでは講演者と若手パネリスト（のべ7名）によるパネルディスカッションを行った。2日目には、3つのセッション（各種被害、地表地震断層と活断層、地震調査研究推進本部と地震動予測地図）において9名による講演があり、それぞれのセッションで講演者と若手パネリスト（のべ12名）によるパネルディスカッションを行った。2日目の最後に、「地震防災研究に求められること」と題した総合討論を実施し、2日間を通じた質疑や議論を行った。

地震防災に関わる研究の現状について技術的、社会的な課題について幅広く議論が行われた。30年間で

発展した地震動観測網やシミュレーション技術などについて共有されるとともに、未解決な事項に関して問題提起が多くなされた。特に、研究成果を実務に活用する課題について、技術的な問題もさることながら、研究者、設計者、ユーザのコンセンサスを得る努力がまだ足りていないことが認識された。これらの課題は、本研究集会で議論されたこれまでの 30 年を踏まえ、今後 30 年に向けて解決すべき課題が共有された。また、本研究集会对面で実施したことは、同じコミュニティにいる異なる年代層の研究者・実務者・ユーザが相互の存在を認識する良い機会になったことが強調された。

(3) プログラム

研究集会「平成 7 年兵庫県南部地震から 30 年の今、地震防災研究に求められること」

Workshop “What is sought for earthquake disaster prevention studies, 30 years passed since the 1995 Kobe Earthquake”

日 時：2025 年 8 月 21 日(木)13:00～17:30（開場：12:30）

2025 年 8 月 22 日(金)09:30～17:30（開場：09:10）

場 所：京都大学宇治キャンパス おうばくプラザ きはだホール&Zoom

懇親会：2025 年 8 月 21 日(木)17:45～@おうばくプラザ ハイブリッドスペース#

スケジュール：

1 日目：2025 年 8 月 21 日(木)

13:00 開会の挨拶・趣旨説明 松島信一（京都大学防災研究所 教授）

13:15～15:45 セッション 1 強震観測と震源破壊過程

13:15 強震観測の夜明け 香川敬生（鳥取大学工学部 教授）

13:45 震源像に関して 関口春子（京都大学防災研究所 准教授）

14:15 強震動予測レシピ 三宅弘恵（東京大学大学院情報学環 教授）

14:45 強震観測はいま ～阪神・淡路大震災から 30 年を迎えて～
青井真（防災科学技術研究所 巨大地変災害研究領域長）

15:15 パネルディスカッション

パネリスト：香川敬生、関口春子、三宅弘恵、青井真

重藤迪子（九州大学大学院人間環境学研究院 准教授）

小穴温子（清水建設技術研究所 主任研究員）

渡辺哲史（小堀鐸二研究所地震地盤研究部 部長）

浅野公之（京都大学防災研究所 教授）

15:45 休憩

16:00～17:30 セッション 2 強震動シミュレーションとインフラ施設被害

16:00 震源近傍強震動のシミュレーション

松島信一（前掲）

16:30 インフラ施設の被害とその教訓

高橋良和（京都大学大学院工学研究科 教授）

17:00 パネルディスカッション

パネリスト：松島信一、高橋良和

小阪宏之（戸田建設技術研究所 主任）

後藤浩之（京都大学防災研究所 教授）

土井一生（京都大学防災研究所 准教授）

17:30 1日目終了

17:45 懇親会@ハイブリッドスペース

2日目：2025年8月22日(金)

09:30～12:00 セッション3 各種被害

09:30 建築物の被害とその後の対応 鉄筋コンクリート造を例にして

楠浩一（東京大学地震研究所 教授）

10:00 液状化被害と液状化解析

渦岡良介（京都大学防災研究所 教授）

10:30 広域火災の被害とその要因

岩見達也（国土技術政策総合研究所都市研究部 都市防災研究室長）

11:00 津波災害研究の進展と今後

森信人（京都大学防災研究所 教授）

11:30 パネルディスカッション

パネリスト：楠浩一、渦岡良介、岩見達也、森信人

毎田悠承（東京大学地震研究所 准教授）

中嶋唯貴（北海道大学大学院工学研究院 准教授）

西野智研（京都大学防災研究所 准教授）

倉田真宏（京都大学防災研究所 准教授）

上田恭平（京都大学防災研究所 准教授）

12:00 昼休み

13:00～14:30 セッション4 地表地震断層と活断層

13:00 地表地震断層の出現と活断層図の作成

後藤秀昭（広島大学大学院人間社会科学研究科 教授）

13:30 活断層・古地震研究の進展と課題

吾妻崇（産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門 主任研究員）

14:00 パネルディスカッション

パネリスト：後藤秀昭、吾妻崇

吉見雅行（産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門 主任研究員）

宮腰淳一（清水建設技術研究所 主席研究員）

浅野公之（前掲）

14:30 休憩

14:45～16:45 セッション5 地震調査研究推進本部と地震動予測地図

14:45 地震調査研究推進本部について

上野寛（文部科学省研究開発局地震火山防災研究課 地震調査管理官）

15:15 強震動予測のための全国地下構造モデル

岩田知孝（京都大学 名誉教授（地震調査研究推進本部強震動評価部会長））

15:45 全国地震動予測地図の作成と地震ハザードステーション J-SHIS の開発

藤原広行（防災科学技術研究所 研究主監）

16:15 パネルディスカッション

パネリスト：上野寛、岩田知孝、藤原広行

鈴木文乃（鹿島建設技術研究所 主任研究員）

地元孝輔（香川大学創造工学部 准教授）

前田宜浩（防災科学技術研究所 主任研究員）

長嶋史明（京都大学防災研究所 准教授）

16:45 セッション 6 総合討論

「地震防災研究に求められること」

17:25 閉会の挨拶 松島信一（前掲）

17:30 閉会

(4) 研究成果の公表

なし